

人生の糧に

8月3日、4日の2日間、私達は「東大見学会」に参加しました。この企画は、ディレクトフォース、日本財団、笹川平和財団の方々による夏季プログラムから始まりました。その後普段は覗くことができない有名企業の研究室などを見学しました。夜には二高のOB・OGとの懇談会を行いました。そして4日には、日本で一番の名高い東京大学のオープンキャンパスに参加しました。この中で私が将来に活かしたい情報を手に入れられた3日について振り返りたいと思います。

まず午前中に行われた夏季プログラムについてです。初めに笹川平和財団の理事長で、国際エネルギー機関事務局長の田中伸男さんのお話を伺いました。現在の地球で起こっているエネルギー問題、とりわけ石油の問題についてお話しくださり、科学技術が中途半端に発達しすぎてしまったからこそ、現在石油などの化石燃料の枯渇、再生可能エネルギーでの発電量の増大が課題になってしまっていると感じました。そしてこれを他人事と思わず、自らも解決しようと積極的に問題に取り組むべきだと感じました。またお話を伺って、世界全体の平和や幸福の為に働く仕事に、少し興味を持ちました。

この講演後、3団体の方々からのお話も伺いました。どの方のお話も非常に興味深く、参考になるものばかりでした。その中でも、お2人のお話が印象に残っています。村上悠平さんは、私達と同じ東北の福島県から早稲田大学という名門校に進学していて、凄いと思うと同時に、同じようなことが自分にもできるのだと勇気をもらいました。また、村上さんは外務省で経済連携協定やTPPの交渉、東南アジアや太平洋の国々に対する政府開発援助の業務に携わっていて、その後、笹川平和財団で海洋生物と周辺海域に関する仕事を行なっているとのことでした。お話を聞いて、私や班のメンバーは「以前と今では職業の内容が大きく異なっている。」と思いましたが、村上さんは「異なるという感覚はない。財産の平等な分配をテーマに活動している。」と答えてくれました。そして、「国際的な政府はなく税金の徴収等は行えない。様々な方法でアプローチしている。」とも答えてくれました。世界の中ではごく少数の人々が多大な富を持つ一方で、途上国では多くの人々が貧困で苦しみ、悲しいことに命を落としたりしてしまったり、テロなどの犯罪行為に走ってしまう人が少なからずいます。グローバル化した今日では、自分たちだけが裕福だったり、平和だったりすれば良いという考えは捨て、世界の全ての人が救われ平和になるよう、他人事と思わず努力しないといけないと思いました。村上さんは「本当に好きな仕事をしている人はごくわずか。自分なりの1つの大きなテーマを実行できるように。」という話もしてくださいました。私は「どうすれば1つの大きなテーマを見つけられるか。」と尋ねると、村上さんは「様々な本を、特にあまり関心のない本を意識して読むように。」と答えてくださいました。私は少し後ろめたい気持ちでした。あまり関心のない本は読んでいなかったからです。もっと幅広いジャンルで本を読んでいこうと決意しました。

もう1人印象に残った方は、青木脛さんです。青木さんは国際基督教大学を卒業後、日本アイビーエ

ム取締役や日本シーベルと日本データクラフトの社長を経験するなど華々しい経歴を持っておられます。青木さんは御自身のことはあまり話されず、私達の質問に答える形でお話ししてくださいました。青木さんは「高校は社会への充電期間。グローバル化や少子高齢化など社会で起きていることを知り、ぶれない自分をつくる為に山ほど失敗することが大事。また、高校では夢中になれるものを見つけ、一生懸命に取り組むべき。自分の長所と短所を知り、五感を使った経験ができる。社会は電源を切ったり、やり直したりできない。現実を見ること。また知識は勿論必要だがそれだけでなく部活中などでも常に『なぜ?』を考えることが必要。」と話してくださいました。青木さんの話は私にとって心に響くものがありました。若いうちに様々なことに積極的に挑戦し、失敗していこうと思いました。

3 団体の方々から深いお話を伺った後、私たちは横浜市にある麒麟株式会社の、テクノビレッジセンターを訪問しました。ここでは、栗原さんと木下さんが、私達の為に時間を割いてくださいました。

まずお 2 人は麒麟という会社について説明してくださいました。私はキリングroupが医薬品を製造していることを初めて知り、驚きました。またキリングroupはアジアやオセアニア、ブラジルにも展開していると知り、規模がとても大きいと思いました。また株式会社麒麟の中の1つの部門の飲料技術研究所ではカフェイン0の緑茶と紅茶を世界で初めて開発したと知り、技術の高さに感心し、ハイレベルの新技术を生み出せる職場に興味を持ちました。さらに、「紅茶と暮らし研究所」というバーチャル研究所では、紅茶の持つ様々な意外な効果が研究されており、中でもミドル脂臭を抑える効果があるというレポートが紹介され、紅茶は素晴らしいと思いましたその後、実際に「午後の紅茶」を製造している研究所を見学させてくださいました。多くの研究員の方々が働いていて、また多くの精密機械もあり、軽い気持ちでは立ち入ることのできないような厳かで静かな空気がある、と思いました。しかし、それだけに、真剣に研究に打ち込める環境が整備されているのだとも思いました。最後に質疑応答がありました。1つの商品の製造に非常に多くの人に関わっていて、1年ほどで完成するという話を伺い、苦勞と時間の上に商品が成り立っているのだと思いました。しかし、新しい商品や技術のアイデアは5人から10人という少ない人数で考えられていると知り、少なさに驚きました。この訪問は将来の職業について、非常に参考になる経験でした。

その日の夜、私たちが宿泊するホテルで二高のOB・OGの方々との懇談会が行われました。先輩方は全員二高から難関大学に進学し自身の夢へと努力している方々ばかりなので、とてもためになるお話を伺うことができました。

まず学んだのは、「学部選びは大学選びよりも大事」ということです。つまり、偏差値ではなく自分がしたいことで大学を選ぶことが必要だということです。また合格は単なる手段で、本当の目標は「そこで何をするか」だということ意識する必要があると学びました。「今自分に必要なことを勉強する為には、『やっていない人もいるからいい』などと甘えず自分のペースで勉強することが大事だ」ということも学びました。

まだまだ学んだことは多くありますが、この懇談会に参加していた先輩方はそれぞれ自分自身のはっきりとした考えを持っていて、自分も先輩方のようになりたいと思いました。そのためには勉学に励むだけでなく高校のうちに様々な経験をしておくことが大切だと思いました。

この2日間はとても有意義で濃密な日程でした。この2日間の体験は、恐らく人生で一度きりだと思います。今後私はそう遠くない将来社会の歯車の1つとなります。この経験をおろそかにせず、社会の中で自分の居場所や目標を見失うことなく自らの意思を持って回転することができるように、これからの高校生活、さらにはその後の人生に活かしていきたいと思います。